

プロスポーツチームのキャンプ地選定理由に関する研究

1200413 岡林 舞乃

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要

現在、高知県では3球団のプロ野球チームが毎年キャンプを行っている。いずれも、キャンプに訪れる県外客のスポーツツーリズムによる経済波及効果が期待されている。平成29年のオリックス・バファローズ(以下オリックス)の高知キャンプでは約1億円の経済波及効果が生まれた。しかし、高知県でキャンプを行うプロ野球チームは年々減少しており、ピーク時には5球団のプロ野球チームの一軍がキャンプを行っていたが、現在は一軍のキャンプが1球団と二軍のキャンプが2球団の計3球団のみとなった。

そこで本研究では、現在唯一高知県で一軍キャンプを行っているオリックスの職員にインタビューを行い、高知県でキャンプを行う理由を調査することによって、高知県のキャンプ地としての魅力を明らかにする。そして、その他のキャンプや合宿誘致の活性化に繋がる要素を発見し、これからのスポーツツーリズム拡充に対する考察を得る。

2. 背景

現在、プロ野球チームがオフシーズンに、温暖な地域でキャンプを行うことは通例となっている。キャンプの時期になると球団のホームページでは場所や日程、参加メンバーが公表され、ファンは目当ての選手を見ようとキャンプを観戦しに行く。選手も実力をつけるため、チームを強化するために必死に練習に取り組む。キャンプ地は寒さによる故障を防ぐため、暖かい場所で行うことが定番となっている。昔は現在よりもキャンプを行うことが重要視されていなかったが、巨人が1959年に宮崎県でキャンプを開始したことをきっかけに、キャンプの重要性が当時のプロ野球チームに広がった。そこから宮崎県では数多くのプロ野球チームがキャンプを行うようになり、2019年秋季キャンプでは4球団、2020年春季キャンプでは5球団のプロ野球チームの一軍が宮崎キャンプを行っている(表1. 表2)。秋季はキャンプ地にばらつきがあり、沖縄県や宮崎県には限らず様々な地域でキャンプが行われている。このことから、秋季キャンプでは、ハー

ド面よりもソフト面が優先されている特徴があることが分かる。

表1 プロ野球チームのキャンプ地 2019 秋季キャンプ

チーム名	一軍
巨人	宮崎
DeNA	神奈川・鹿児島
阪神	高知
広島	宮崎
中日	沖縄・名古屋
ヤクルト	愛媛
西武	宮崎
ソフトバンク	宮崎
楽天	岡山
ロッテ	千葉
日本ハム	沖縄・アリゾナ
オリックス	大阪・高知

表2 プロ野球チームのキャンプ地 2020 春季キャンプ

チーム名	一軍	二軍
巨人	宮崎	宮崎
DeNA	沖縄	沖縄
阪神	沖縄	高知
広島	宮崎・沖縄	沖縄・宮崎
中日	沖縄	沖縄
ヤクルト	沖縄	宮崎
西武	宮崎	高知
ソフトバンク	宮崎	宮崎
楽天	沖縄	沖縄
ロッテ	沖縄	沖縄
日本ハム	沖縄	沖縄
オリックス	宮崎	宮崎

高知県でも、これまで多くのプロ野球チームのキャンプを受け入れてきた。1954年には阪急ブレーブスが初めて高知県でキャンプを行い始め、過去には最大5球団が一軍キャンプを行っていた。

プロ野球チームを高知キャンプに誘致することの高知県のメリットは、県外客のスポーツツーリズムによる経済波及効果への期待にある。観光庁では、スポーツツーリズムについて、「スポーツを通じて新しい旅行の魅力を創り出し、我が国の多種多様な地域観光資源を顕在化させ、訪日旅行・国内観光の活性化を図る」「更に意図的に融合させることで、目的地へ旅する明確な理由を作り出し、新しい価値・感動と共に、新たなビジネス・環境を創出すること」(観光庁 2011)と述べられている。

2017年秋季の高知キャンプでオリックスは、6370人を動員した。そのうちの約9割が県外客で、県外観光客の一人当たりの県内平均消費額は17,343円であり、経済波及効果は約1億円となった。高知県は例年、オリックスに助成金を1千万円拠出しているがそれを大幅に超える経済波及効果となっている。

このように、高知県のスポーツツーリズムへ大きな影響を与えているプロ野球チームのキャンプだが、かつて高知県ではプロ野球チームの一軍が5球団高知県でキャンプを行っていたが、高知県でキャンプを行うプロ野球チーム数は年々減少しており、現在は3球団まで減少している。その内訳は、一軍のキャンプが1球団と二軍のキャンプが2球団の計3球団のみとなっている。もう一度多くの球団にキャンプに来てもらうためには、新しい施設を作ることが考えられるが、新しい施設を作ったとしても、宮崎県や沖縄県の水準を超えるような施設を作らなければキャンプ移行には繋がらない。それには、莫大な資金が必要となるため、すぐには難しいと考えられる。そこで、施設などのハード面ではなく、サービスやチームとの連携などのソフト面を重視することで、キャンプや合宿誘致に繋がるのではないかと考えた。

オリックスは一軍の高知キャンプを現在も継続して行っていることから、本研究では、オリックスが高知キャンプに感じた印象や高知県をキャンプ地に選定し続けている理由をインタビューし、そこから高知県でのキャンプの魅力を発見することを試みる。

3. 目的

本研究の目的は、現在高知県で唯一の一軍キャンプを行っているプロ野球チームであるオリックスの職員にインタビューを行い、高知県でキャンプを行う理由を調査し、キャンプ

や合宿誘致の活性化に繋がる要素を発見し、これからのスポーツツーリズム拡充に対する考察を得ることである。

4. 研究方法

本研究では、一軍の高知キャンプを行っているオリックスの職員にインタビュー調査を行った。調査日は、2019年11月13日(水)であり、場所はオリックスの2019年秋季キャンプのキャンプ地である高知市東部総合運動場野球場にて行った。インタビュー項目は、真鍋(2017)を参考に、以下の18項目を設定した。

- Q1 高知県でキャンプが始まった経緯は？
- Q2 現在も高知県で続けている理由は？
- Q3 キャンプ地の決定権は誰なのか、チーム内での反対の有無はあるのか？
- Q4 高知県でキャンプをするメリットは？
- Q5 高知県でキャンプをするデメリットは？
- Q6 宮崎県との違いや決め手は？
- Q7 宮崎県以外で今検討しているキャンプ候補地はあるか？
- Q8 現在、春季キャンプは宮崎県で行っているが、宮崎県からアプローチはあったのか？
- Q9 キャンプをする際に必要な要素は？
- Q10 高知県の対応についてはどう感じているか？
- Q11 キャンプで改善してほしいところは？
- Q12 他球団の職員と話す際、高知県は話題に出るのか？
- Q13 2019年の秋季キャンプに投手が東部球場に来なかった理由は？
- Q14 投手が来ていないことにより集客は減少したのか？
- Q15 高知キャンプの一番の決め手は？
- Q16 高知キャンプに対する選手の印象は？
- Q17 自治体の協力体制はどう感じているか？
- Q18 キャンプ地を変えることはあるか？

5. インタビュー結果

オリックスの職員へのインタビューの結果は以下の通りである。

高知キャンプが始まった経緯(Q1)に関しては、まず、キャンプが始まった当時は飛行機移動が一般的ではなく、沖縄などをキャンプ地に選ぶことは一般的ではなかった。そのため、

関西から近く温暖な高知県を選んだ。さらに、当時は阪急・近鉄・南海・西部・阪神なども高知県でキャンプを行っていたため、対戦相手に困らなかったこともきっかけとなった。

現在も高知県で続けている理由(Q2)に関しては、対戦相手は少ないが、秋季キャンプは試合をする必要がなく、明石海峡大橋があり陸続きのため車でも来られることが挙げられた。温暖な気候で晴天も多く食事も美味しいからということも理由の一つである。

キャンプ地の決定権や、チーム内での反対の有無(Q3)に関しては、球団本部が立案をして球団社長が決定するが反対は特にないということが分かった。

高知県でキャンプをするメリットとデメリット(Q4・Q5)に関しては、メリットは、関西から近く施設が充実しており自治体の対応も良く練習がしやすい環境が整っていることを挙げ、デメリットでは、飛行機やバスの満席の場合は遠回りをして鉄道でいかなければならず、阪神と被るとさらに席が取れなくなることが挙げられた。

宮崎県との違いや決め手(Q6)に関しては、施設面であった。宮崎県の球場の規模は高知県の球場の2倍あり、1軍と2軍が同時に練習でき、さらに、宮崎県は春季キャンプの時期は5球団が近くにおり練習試合が組みやすいことが挙げられた。宮崎県以外で今検討しているキャンプ候補地は無く(Q7)、沖縄が近年一般的だが、移動費がかかるし、海外は食文化や医療、言葉に不安があることが挙げられた。

また、現在、宮崎県で行っている春季キャンプについて、宮崎県からアプローチはあったのか(Q8)に関しては、球場を新しくするからキャンプをしないかと誘われた。それ以前までは宮古島で春季キャンプをしていたが、宮古島は施設が老朽化しており、小さく、ロッカールームなども人が入りきらなかった。また、グラウンド整備もあまり良くなかった。それらを解消することで宮崎県からのアプローチがあった。

キャンプをする際に必要な要素と改善点(Q9・Q11)に関しては、必要な要素については、秋は練習場所、春は対戦相手であり、改善点についてはキャンプ中のアルバイト雇用であった。若い野球経験者が望ましいが、学校や仕事があるため人がなかなか集まらない。特に、雨の日に必要ということであった。

高知県の対応(Q10)については、昔も今も、素晴らしい練習環境でやらせてもらっているという満足の声が上がった。し

かし、春季は1軍と2軍一緒にやりたいが、東部球場ではまとめて練習することができない。また、近くに対戦相手がないことが、高知キャンプが秋季のみとなっている理由の一つであることが分かった。

他球団の職員と話す際、高知県は話題に出るのか(Q12)に関しては、西部や阪神の方と話すことがあり、最近では、東部球場横にできた多目的ドームについて話したことが分かった。

2019年の秋季キャンプに投手が東部球場に来なかった理由と投手が来ていないことにより集客への影響(Q13・Q14)に関しては、投手が来なかった理由としては野手の1軍の選手に怪我人が多く、1軍と2軍を分けられなかったことが原因であった。また、若手起用をしているので年齢を問わず練習できるようにしたかったため、野手を全員連れてくる必要があり、野手の練習スペースは打撃・守備・走塁を同時にできるようにしたかったこと、投手だけなら大阪で練習可能だったということから、今回の決定に至った。集客に関してはあまり気にしていないということだった。

高知キャンプの一番の決め手(Q15)に関しては、費用面であった。宮崎県だと、移動費が高いが、高知県だと安いので人の入れ替えもしやすい。また距離的にも陸続きなので、移動しやすいということが挙げられた。

高知キャンプに対する選手の印象(Q16)に関しては、食べ物が美味しく、近いから友人や家族に来てもらいやすいということが挙げられた。

自治体の協力体制(Q17)に関しては、地元支援団体である、しらすぎ会の方たちが寮生のためにお米を送ってくれてありがたく感じているということであった。

キャンプ地を変えることはあるか(Q18)に関しては、今のところ高知県を変えるつもりはなく、その理由としては、高知県のしらすぎ会の方や自治体の対応が良いということが挙げられた。

以上のインタビュー調査から、オリックスが高知県をキャンプ地に選び続ける理由は、「立地が良い」「施設が十分である」「ホスピタリティが良い」というものであった。特に、オリックスの本拠地である大阪府と高知県は陸続きであるためバス移動が可能となる。また、距離も近いので、飛行機などの移動費を削減することが出来る。そして、多目的ドームが新たに完成したことから、日頃の練習だけでなく雨天の際の

練習も以前より充実するものとなった。ホスピタリティ面では、自治体の対応も良く、しらすぎ会の方が寮生へお米を送っていることから、良好な関係を築けていた。そして、高知キャンプを反対する者はおらず、今のところ秋季キャンプは高知キャンプから変更するつもりはないということが分かった。このことから、オリックスは高知キャンプに好印象を持っており、これらの長所を磨くことで、キャンプ・合宿誘致に繋がるのではないかと考えた。

さらに、キャンプに必要なこととしては、秋季キャンプには練習場所、春季キャンプには選手の入替えが多いため一軍と二軍がまとめて練習できる場所の確保や、3月下旬からの試合に備えて試合慣れするための、近くの対戦相手であった。しかし、高知キャンプの施設は、高知市東部総合運動場野球場に新しく多目的ドームが出来たものの、まだまだ宮崎キャンプの半分程の規模しかないことや、近くに対戦相手が少ないことから、春季キャンプにプロ野球チームを誘致する準備が高知県には整っていないという結果となった。

6. 考察

近年の各チームの傾向から、春季キャンプは施設が重要なためハード面、秋季キャンプでは付き合いが重要なためソフト面が大切だと考えられる。インタビュー結果でも述べたように高知県の施設の規模では宮崎キャンプの半分程しかないなど課題が多く、春季キャンプにプロ野球チームを誘致する準備が整っていないため、新しく他県よりも優れた施設を作らなければ、春季キャンプのプロ野球チームの誘致は難しいことが分かった。しかし、秋季キャンプで重要なソフト面はすぐに対応が可能なため、ソフト面をアピールすることで、秋季キャンプにプロ野球チームを誘致できたり、大学野球や社会人野球、他の競技などの合宿誘致に繋がるのではないかと考えられる。

真鍋(2017)の研究では、福岡ソフトバンクホークスが高知キャンプから宮崎キャンプに移った要因として、球場付近の農家との共存策を迅速に改善することができなかったからということが理由の一つとして挙げられている。このことから、キャンプや合宿を行うにあたって、施設付近の方々との協力は必要不可欠である。地域との様々な問題を解決することを前提として、以下に、他のスポーツやアマチュア競技への拡充に関して考察する。

サッカーでは、J3であるカターレ富山が高知県立春野総合運動公園にてキャンプを行った際、ごっくん馬路村や芋けんぴなど高知県の特産品を贈った。J2であるアルビレックス新潟にも、特産品を贈った他、地元チームや大学との練習試合を組み、対戦相手に困らないようになっていた。これは、地元チームにとってもメリットにもなっている。

現在、高知県ではアマチュアスポーツなどの合宿誘致に力を入れており、実際に合宿は年々増加している。2014年から2016年にかけて、アマチュアスポーツ参加者は1.5倍となっている。高知県は、スポーツ大会・合宿の開催を応援するために様々な政策が実行されている。まず、高知県内で開催される中四国大会以上の規模の大会が対象とした「コンベンション支援制度」では、県外参加者が延べ宿泊数100泊以上することで1泊につき500円(一部期間を除き)の支援を行っている。さらに、高知県内の宿泊施設(ホテル・旅館等)に宿泊する県外のアマチュアスポーツ団体(社会人及び学生)の合宿を対象に、高知県アマチュアスポーツ合宿支援事業があり、延べ宿泊20泊以上すると1泊につき1000円、100泊すると1泊につき2000円の助成金を受けることが出来る。宿毛市では、宿毛市スポーツ合宿等推進事業補助金があり、延べ200泊以上宿泊することで10万円の補助金を受けられる。2年目以降は15万円の補助金を受けられるため、リピートしてもらえるような制度になっている。

このように、金銭面での補助も目立つ一方で、ソフト面での支援が充実しているのが黒潮町である。黒潮町の、スポーツ合宿や大会を完全サポートする「ようこそ！すなびスポーツへ」という政策では、スポーツ施設・宿泊の手配だけではなく、準備や片付けや大会の企画・運営まで行ってくれる。これはまさに、人の連携や地域の協力など、ソフト面を全面的に拡充した取り組みであり、他の地域も参考にすべきである。また、高知市観光協会では「楽！楽！高知で泊まるきキャンペーン」というキャンペーンを行っており、対象の宿泊施設と観光施設に行き応募すると、抽選で高知の特産品と宿泊券をプレゼントしてもらえる。こうしたスポーツ以外のキャンペーンも参考にしつつ、合宿と観光を組み合わせることによって、相乗効果も生まれるのではないだろうか。

オリックスの事例を参考にすると、しらすぎ会がオリックスの寮生に送っているような、地元住民による受け入れや支援をすることも効果的だと考えられる。合宿誘致をし、合宿

に来てもらった人に地元住民が交流を深められるような体制やおもてなし、宿泊支援など行うことで、また来たいと思われる場所として高知県の魅力が向上することも考えられる。

また、今回の結果を踏まえ、高知市東部総合運動場野球場としてのアマチュア野球チームに絞ったアプローチを考えると、プロ球団が十分にキャンプを展開していることから、大学野球や社会人野球へのアピールも十分出来ることが考えられる。

7. まとめ

本研究では、スポーツツーリズム拡充を目的として、プロ野球チームのオリックスのインタビュー調査を通して、高知キャンプや合宿誘致に繋がる要素を明らかにした。

結果として、オリックスが来続ける理由は、「立地が良い」「施設が十分である」「ホスピタリティが良い」というものであった。高知県では、アマチュア合宿の体制が整い始めており、プロの意見を参考にしつつ、幅広い層にアピールすることで、高知県のスポーツツーリズム拡充に繋がっていくのではないだろうか。

参考文献

- 1 読売巨人軍公式 WEB サイト
<https://www.giants.jp/top.html>
- 2 横浜 DeNA ベイスターズオフィシャルホームページ
<https://www.baystars.co.jp/>
- 3 阪神タイガース公式サイト
<https://hanshintigers.jp/>
- 4 広島東洋カープ
<https://www.carp.co.jp/>
- 5 中日ドラゴンズオフィシャルウェブサイト
<http://dragons.jp/>
- 6 東京ヤクルトスワローズ公式サイト Tokyo Yakult Swallows
<https://www.yakult-swallows.co.jp/>
- 7 埼玉西武ライオンズオフィシャルサイト
<https://www.seibulions.jp/>
- 8 福岡ソフトバンクホークスオフィシャルサイト
<https://www.softbankhawks.co.jp/>
- 9 東北楽天ゴールデンイーグルスオフィシャルサイト
<https://www.rakuteneagles.jp/>
- 10 千葉ロッテマリーンズオフィシャルサイト
<https://www.marines.co.jp/>
- 11 北海道日本ハムファイターズオフィシャルサイト
<https://www.fighters.co.jp/>
- 12 オリックス・バファローズオフィシャルサイト
<https://www.buffaloes.co.jp/index2.html>
- 13 国土交通省観光庁 スポーツツーリズム推進基本方針(概要)
<https://www.mlit.go.jp/common/000149957.pdf>
- 14 真鍋(2017) プロ野球キャンプ誘致合戦における高知県の敗因と今後の展開 ～ホークスの事例分析とインタビュー調査～
- 15 カターレ富山 オフィシャルウェブサイト
https://www.kataller.co.jp/all/press-release/2020_高知キャンプ-1_目目/
- 16 高知新聞 J2 アルビレックス新潟キャンプ入り 高知県の春野運動公園 2018.01.18
<https://www.kochinews.co.jp/sp/article/152914/>
- 17 高知県観光コンベンション協会
https://www.attaka.or.jp/corp/sports_shien.php
- 18 黒潮町 SUNABI SPORTS
<https://www.town.kuroshio.lg.jp/img/files/pv/sosiki/合宿パンフ.pdf>
- 19 宿毛市観光協会
<http://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-14/hojokinn0326.html>
- 20 高知市観光協会
<http://www.welcome-kochi.jp/rakuraku-stay.html>
- 21 平成 29 年度第 1 回高知県スポーツ振興県民会議
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/141801/files/2017060700229/file_2017622413222_1.pdf
- 22 高知県庁ホームページ 県外観光客入込・動態調査について
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/020101/files/2017090600162/file_2019285211626_6.pdf

